

1. 製品及び会社情報

製品名	フラットタイトP
会社名	三ツ星ベルト株式会社
住所	神戸市長田区浜添通4丁目1-21
電話番号	078-685-5771
整理番号	A-064
推奨用途及び使用上の制限	モルタル混和用

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外

健康に対する有害性:

有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分外
皮膚腐食性・刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分 1B
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分2
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
吸収性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性:

水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

発がんのおそれ (H350)

臓器 の障害のおそれ (H371)

(安全対策)

ミスト、蒸気を吸入しないこと (P260)

安全データシート

作成 2010年12月24日

改訂 2023年3月31日

2/9

(応急措置)	取り扱い後は手をよく洗うこと (P264) この製品を使用する前に、飲食または喫煙をしないこと (P270) 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること (P280) ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること (P308+P311) ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診察 / 手当てを受けること (P308+P313)
(保管)	施錠して保管すること (P405)
(廃棄)	内容物を都道府県及び市町村の規則に従って廃棄すること (P501)
(注意事項)	接着作業中、乾燥中、養生中とも換気をよくして下さい。 取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにして下さい 容器からこぼれた場合には布等で拭き取り、密閉容器に回収して下さい 取り扱い後は、うがいを行ない、石鹼水等で手洗いを十分に行なって下さい 粘着、接着、バインダー用途以外には使用しないで下さい

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区分: 混合物
一般名: 水性エマルジョン

化学名	化学式	含有量 (%)	官報公示 整理番号	CAS No.
エチレン・酢酸ビニル共重合体	$(C_4H_6O_2)_n-(C_2H_4)_m$	44~46	6-6	非公開
エチレングリコール	$C_2H_6O_2$	3.0~8.0	2-230	107-21-1
酢酸ビニル	$C_4H_6O_2$	0.1~0.4	2-728	108-05-4
ニュートラル潤滑油用基油(鉱油)	特定できない	0.1~0.2	登録済み	登録済み
水	H_2O	48~50	—	—

4. 応急処置

吸入した場合:	蒸気、ガスなどを吸入して、気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所へ移動させて、安静、保温に努め、速やかに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合:	付着した衣服、靴をぬぎ、付着した部分を水または微温湯を流しながら洗浄する。
目に入った場合:	清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。
飲み込んだ場合:	水でよく口の中を洗い、直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火剤:	水、強化液、泡消火剤、粉末消火剤、ハロゲン化物消火剤
特定の消火方法:	このもの自体には可燃性はないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。燃焼の際は、火元への燃焼源を断ち、消化剤を使用して消化する。 延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺を冷却する。 消火作業は風上から行う。
消火を行う者の保護:	消火作業の際は適切な保護具(送気マスク、自給式呼吸器等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 作業の際には保護靴、保護手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

安全データシート

作成 2010年12月24日

改訂 2023年3月31日

3/9

環境に対する注意事項:

流路を毛布・土等を用いてせき止め、河川、湖沼への流出を防止する。

河川、湖沼へ流入した場合は、必要に応じ、警察署・消防署・都道府県市町村の公害関連部署・河川管理局・水道局・保健所・農協・漁協等に直ちに連絡を取る。

除去方法:

多量流出の場合はバキューム等で汲み上げ、又少量流出の場合はおが屑、土砂、パーライト等を混ぜモルタル状として擬固回収する。

二次災害の防止策:

漏出した場所の周辺には、ロープを張るなどの措置を行い、作業員以外の立ち入りを禁止する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策:

適切な保護具(曝露防止及び保護措置の項を参照)を着用する。
手洗い、洗眼、うがい等の設備を設ける。

注意事項:

取扱いは換気の良い場所で行う。
残液や、洗浄に使用した水は下水には流さないようにし、廃棄上の注意の項を参照して適切に処理する。

安全取扱い注意事項:

取扱い後は手、顔等を良く洗い、うがいをする。

保管

技術的対策:

皮張り防止のため容器を密閉して保管する。

混触禁止物質:

なし。

適切な保管条件:

凍結、直射日光を避け、5℃から35℃の屋内で保管すること。

安全な容器包装材料:

水含有製品の為、ポリ容器、内面ポリマーコーティングした容器等。

8. 曝露防止及び保護措置

設備対策:

室内で取扱う場合は、局所排気装置又は全体換気装置を設置するほうが好ましい。

スプレーなどの使用で飛散する可能性がある場合はその対策をとる。

管理濃度:

[エチレングリコール] 設定されていない。

[酢酸ビニル] 設定されていない。

[ニュートラル潤滑油用基油(鉱油)] 設定されていない。

許容濃度:

[エチレングリコール] TLV-STEL(C 100mg/m³(H)) 100mg/kg(ACGIH 2014年版) H: Aerosol only

[酢酸ビニル] TLV-TWA 10ppm、35mg/m³(ACGIH2019年版)

TLV-STEL15ppm、53mg/m³(ACGIH2019年版)

保護具

呼吸器の保護具:

簡易マスク

手の保護具:

保護手袋(ビニール製・ゴム製)

眼の保護具:

保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具:

長袖、長ズボンの作業服、保護帽、保護靴

衛生対策:

保護具は保管場所を定めて保管し、清潔なものを使用する。

取扱い場所の近くに手洗い、洗眼、うがい等の設備を備え、その位置を明示する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状:

液体

色:

乳白色

臭い:

微酢酸ビニル臭

融点・凝固点:

約0℃

沸点又は初留点および沸点範囲:

約100℃

安全データシート

作成 2010年12月24日

改訂 2023年3月31日

4/9

可燃性:	なし。
爆発下限界及び上限界/可燃限界:	データなし。
引火点:	なし。
自然発火点:	なし。
分解温度:	データなし。
pH:	5.0~6.5(水で50%希釈)
動粘性率:	1,650mm ² /s(動粘度:1,800mPa·s)
溶解度:	水で無限大に希釈可能
n-オクタノール/水分配係数(log 値):	データなし。
蒸気圧:	データなし。
密度及び/又は相対密度:	約 1.1g/cm ³ (23°C)
相対ガス密度:	データなし。

10. 安定性及び反応性

安定性:	一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。
特定条件下で生じる危険な反応:	知見なし。
避けるべき条件:	凍結させないこと。
危険有害な分解生成物:	知見なし。

11. 有害性情報

(混合物の有害性情報)

急性毒性:	経口	データなし
	経皮	データなし
	吸入	データなし
皮膚腐食性・刺激性:		データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性:		データなし
呼吸器感受性:		データなし
皮膚感受性:		データなし
生殖細胞変異原性:		データなし
発がん性:		データなし
生殖毒性:		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露):		データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露):		データなし
誤えん有害性:		データなし

(エチレングリコール)

急性毒性:	経口	ラットの L50 値として、4,000-13,400mg/kg の範囲内で報告がある。(6,140mg/kg(PATTY(6th,2012))、8,540mg/kg(DFGOT vol.4 (1992)、PATTY(6h,2012))、10,800mg/kg(DFGOT vol.4 (1992)、PATTY(6th,2012))、11,300mg/kg(PATTY (6th, 2012))、13,000mg/kg、5,890-13,400mg/kg(SIDS (2009))
	経皮	ラットの LD50 値として、2,800mg/kg(ACGIH(7th,2001))、ウサギの LD50 値として、9,530mg/kg(ACGIH(7th,2001)、PATTY (6h,2012))、10,600mg/kg(CICAD 45 (2002)、CEPA (2000)、NITE 初期リスク評価書(2007))、10,612 mg/kg(環境省リスク評価第3巻(2004))
	吸入	ラットの LC50 値(1時間)として、10.9 mg/L (4時間換算値:2.7 mg/L) (PATTY (6th,2012))
皮膚腐食性・刺激性:		ヒト103人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液 0.2 mL の適用により刺激性がみられた(SIDS (2009))
眼に対する重篤な損傷・刺激性:		ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある(SIDS(2009))。また、液体や蒸気への1回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こす(CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書(2007)、

安全データシート

作成 2010年12月24日

改訂 2023年3月31日

5/9

呼吸器感作性: 皮膚感作性:	CEPA (2000)) データなし ヒトに対する報告が2件あり、本物質5%又は25%水溶液を11人に適用したところ、1人(レンズの切断作業で25%水溶液を扱い腕、胸、腹部に皮膚炎を発症した31歳女性、ニッケルアレルギーあり)に激しいアレルギー反応を示したが、他の10名にアレルギー反応はみられなかった(DFGOT vol. 4 (1992))
生殖細胞変異原性:	in vivoでは、ラットの優性致死試験、マウスの小核試験及び染色体異常試験でいずれも陰性(NITE 初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第3巻(2004)、SIDS(2009)、ACGIH(7th,2001)、ATSDR(2010)、CEPA (2000))細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性(NITE 初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第3巻(2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000))
発がん性: 生殖毒性:	ACGIH 2001)でA4に分類 ラットを用いた経口経路(混餌)での三世代生殖毒性試験においては生殖発生毒性に対する影響は認められなかったとの報告(ATSDR (2010)、(NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻(2004)、CICAD 45 (2002))
特定標的臓器毒性 (単回ばく露):	ヒトにおいては、経口摂取後の毒性影響は主として以下の3段階に分けられる。すなわち、第一段階(摂取から0.5-12時間):中枢神経系への影響(中毒、嗜眠、痙攣、昏睡)及び代謝障害(アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症)、第二段階(摂取から12-24時間):心臓及び肺への影響(頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度の代謝性アシドーシス、低酸素症鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群)、第三段階(摂取から24-72間):腎毒性(シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全)である(SIDS(2009)、CEPA(2000)、環境省リスク評価第3巻(2004))。 さらに、摂取から6-14日、あるいはそれ以降において見られる影響として第四段階を置き、中枢神経系影響に加え、神経学的影響(顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む)が観察され、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある(NITE 初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol.4 (1992))。 なお、ヒトにおける経口摂取による致死量は、約0.4-1.3g/kg bw (CEPA (2000))や1.6g/kg bw (SIDS (2009)、NITE 初期リスク評価書(2007)、ACGIH (7th, 2001))
特定標的臓器毒性 (反復ばく露):	ヒトでは、男性ボランティアに69mg/m ³ までの濃度を毎日20-22時間、1ヶ月間吸入ばく露したが、全身影響はみられなかった(環境省リスク評価第3巻(2004)、SIDS (2009)、ATSDR (2010))
誤えん有害性: (酢酸ビニル) 急性毒性:	データなし 経口 ラットのLD50: 2,920mg/kg(ACGIH(7th, 2018)、ATSDR (1992)、PATTY(6th,2012)、HSDB(Access on September 2019)),ラットのLD50: 3,470mg/kg(ACGIH(7th, 2018)、ATSDR(1992)、DFGOT vol.21 (2005)、EU-RAR (2008)),ラットのLD50: 2,900 mg/kg(環境省リスク評価第2巻(2003)),ラットのLD50: 1,600 ~3,480 mg/kg (NITE 初期リスク評価書 (2005)) 経皮 ウサギのLD50: 8.0 mL/kg(7,440mg/kg)(ACGIH(7th, 2018)、ATSDR(1992)、DFGOT vol.21 (2005)、EU-RAR (2008)),ウサギのLD50: 2,335mg/kg (PATTY(6th, 2012)、HSDB (Access on September 2019)),ウサギのLD50: 2.5mL/kg(2,325mg/kg) (ACGIH(7th, 2018)、ATSDR(1992)),ウサギのLD50: 2,335 ~ 7,470mg/kg(NITE 初期リスク評価書(2005)) 吸入 ラットのLC50(4時間): 3,680ppm(ACGIH(7th, 2018)、ATSDR

安全データシート

作成 2010年12月24日

改訂 2023年3月31日

6/9

	(1992)、PATTY(6th,2012)、HSDB(Access on September2019)、ラットの LC50 (4 時間): 4,490ppm(ACGIH (7th, 2018)、ATSDR (1992)),ラットの LC50(4 時間): 15.8mg/L(4,487.3ppm)、14.1 mg/L (4,004.5ppm) (EU-RAR (2008)),ラットの LC50 (4 時間): 3,200~4,490ppm (NITE 初期リスク評価書(2005)),ラットの LC50 (4 時間): 11,400mg/m ³ (3,237.7ppm)(環境省リスク評価第 2 巻(2003))
皮膚腐食性・刺激性:	作業者の事例では本物質へのばく露による刺激性がみられてお入り、長期のばく露では水疱を生じる (ATSDR (1992)、HSDB (Access on September 2019)),本物質 (0.5mL) をウサギの適用により軽度の浮腫が観察された (ATSDR (1992)),ウサギを用いた皮膚刺激性試験で軽度の刺激性が認められた(EU-RAR (2008)、NITE 初期リスク評価書 (2005)、PATTY (6th, 2012)),本物質は粘膜・皮膚を刺激し、高濃度では皮膚脱脂作用がある (環境省リスク評価第 2 巻 (2003))。
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	本物質はヒトにおいて 21.6 ppm で眼と喉への刺激が報告されている (ACGIH (7th, 2018)、HSDB (Access on September 2019)),ウサギを用いた眼刺激性試験で軽度の刺激性が認められた (EU-RAR (2008)、PATTY (6th, 2012)),本物質は高濃度で結膜に刺激性を有する (DFGOT vol.5 (1993)),気化した本物質及び直接のばく露は眼に刺激性を示す (ATSDR (1992)),本物質 (1~2 滴)をウサギの眼に適用した眼刺激性試験で角膜混濁、結膜発赤、重度の結膜浮腫が 24 時間後にみられたが、8 日以内に回復した(DFGOT vol.21 (2005))
呼吸器感受性:	データ不足のため分類できない
皮膚感受性:	OECD TG 429 に準拠したマウス局所リンパ節試験 (LLNA) において、SI 値は 3 未満であり、陰性と判定された(REACH 登録情報 (Access on November 2019)、ACGIH (7th, 2018)、EU-RAR (2008))
生殖細胞変異原性:	in vivo では、腹腔内投与又は吸入ばく露による多くのマウス、ラットの骨髄及びマウス精原細胞の小核試験で陰性の報告があるが、腹腔内投与のラット骨髄小核試験は証拠の重み付けにより、総合的に陽性と評価される。また、ラット骨髄の染色体異常試験及び姉妹染色分体交換試験では陽性の報告がある (ATSDR (1992)、DFGOT vol.5 (1993)、IARC 63 (1995)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.21 (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2008)),in vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験及びマウスリンフォーマ試験で陽性の報告がある (ATSDR (1992)、DFGOT vol.5 (1993)、IARC 63 (1995)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.21 (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2008)、PATTY (6th, 2012))
発がん性:	ラットを用いたがん原性試験(2 年間飲水投与)で、雄投与群に口腔の扁平上皮がんと扁平上皮乳頭腫、雌投与群に口腔と食道の扁平上皮がんの発生増加がみられた(厚労省委託がん原性試験結果 (Access on September 2019)),マウスを用いたがん原性試験 (2 年間飲水投与) で、雌雄の投与群に口腔と胃の扁平上皮がん、扁平上皮乳頭腫、食道と喉頭の扁平上皮がんの発生増加が認められた (厚労省委託がん原性試験結果 (Access on September 2019)),ラットに 2 年間吸入ばく露した試験で、鼻腔の扁平上皮がん、扁平上皮乳頭腫、上皮内がんの発生が認められた (IARC 63 (1995)、EU-RAR (2008)、ACGIH (7th, 2018)、厚労省初期リスク評価書 (2010)、環境省リスク評価第 2 巻 (2003)、NITE 初期リスク評価書 (2005))国内外の分類機関による既存分類としては、IARC がグループ 2B (IARC 65 (1995))、EU CLP で Carc. 2、日本産業衛生学会が 2B (1998 年提案)、ACGIH が A3(ACGIH(7th, 2018)) にそれぞれ分類している。なお、IARC の評価には(1)及び(2)の結果は含まれていない、本物質は労働安全衛生法第 28 条第 3 項の規定に基づき、厚生労働大臣が定める化学物質による労働者の健康障害を防止するための改正指針の

生殖毒性:

対象物質である(平成24年10月10日付け健康障害を防止するための指針公示第23号)

ラットを用いた飲水投与による2世代生殖毒性試験において、親動物に嗜好性による飲水量の低下とそれに起因した体重増加抑制がみられる用量で、わずかな妊娠率低下と児動物の体重増加抑制がみられている。なお、妊娠率の低下は交叉交配の結果、雄動物の生殖能に関係し、受胎の障害ではなく雄動物の交尾能が劣っていることが原因と考えられるが、精巢の病理組織学的検査では正常であることが報告されている(EU-RAR(2008))。なお、ATSDR(1992)では、同じ試験と思われる試験結果について、妊娠率低下は有意差がなく背景データの範囲内であるとしている。また、児動物の体重増加抑制は母動物の成長遅延に起因した可能性があり、胎児に対する直接的な毒性影響ではない可能性が高いとしている。雌ラットの妊娠6-15日に飲水投与した発生毒性試験において、影響はみられていない(EU-RAR(2008))。雌ラットの妊娠6-15日に吸入ばく露した発生毒性試験において、1,000ppmで母動物に体重増加抑制がみられ、胎児に体重減少、頭腎長短縮、骨化遅延がみられている(EU-RAR(2008))

特定標的臓器毒性(単回ばく露):

ボランティアによる試験で、本物質72ppm、30分の吸入ばく露で4人の被験者全員が喉粘膜の刺激を訴えたとの報告がある(ATSDR(1992)、ACGIH(7th, 2018))。本物質は粘膜・皮膚を刺激し、高濃度では皮膚脱脂、麻酔作用があるとの記載がある(環境省リスク評価第2巻(2003))

特定標的臓器毒性(反復ばく露):

マウスを用いた2年間の吸入毒性試験の結果、200ppm以上(ガイドランス値換算:0.7mg/L、区分2の範囲)で鼻腔の嗅上皮の萎縮、粘液分泌腺の萎縮、600ppm(ガイドランス値換算:2.1mg/L、区分2超)で気管支上皮の剥離又は扁平化、肺に色素貪食マクロファージの集簇等がみられた(ACGIH(7th, 2018)、EU-RAR(2008)、NITE初期リスク評価書(2005))。ラットを用いた2年間の吸入毒性試験の結果、200ppm以上(ガイドランス値換算:0.7mg/L、区分2の範囲)で鼻腔嗅上皮の扁平上皮化生と萎縮、基底細胞の過形成、600ppm(ガイドランス値換算:2.1mg/L、区分2超)で気管支上皮の剥離又は扁平化、肺に色素貪食マクロファージの集簇等がみられた(同上)

誤えん有害性:

データ不足のため分類できない

12. 環境影響情報

(混合物の環境影響情報)

移動性:

水域へ移動する可能性がある。

水生環境有害性 短期(急性):

データなし

水生環境有害性 長期(慢性):

データなし

オゾン層への有害性

データなし

(エチレングリコール)

水生環境有害性 短期(急性):

藻類(Pseudokirchneriella subcapitata 72時間 ErC50>1000mg/L、甲殻類(オオミジンコ)48時間 EC50>1120mg/L、魚類(メダカ)96時間 LC50>100mg/L(いずれも環境省生態影響試験, 2001、環境省リスク評価第3巻, 2004、NITE初期リスク評価書, 2007)

水生環境有害性 長期(慢性):

急速分解性であり(14日後のBOD分解度:90%(既存点検,1988)、甲殻類(ニセネコゼミジンコ)の7日間 MATC4.2mg/L(環境省リスク評価第3巻, 2004)

オゾン層への有害性

データなし

(酢酸ビニル)

水生環境有害性 短期(急性):

魚類(ヒメダカ)での96時間 LC50=2.39mg/L(NITE初期リスク評価書, 2005)

水生環境有害性 長期(慢性):

急速分解性があり(BODによる分解度:90%(既存点検,1988))、

かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=0.73 PHYSPROP Database、2009 データなし

オゾン層への有害性

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:

廃棄処理を業者に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び、産業廃棄物管理表(マニフェスト)を交付して適切に処理すること。

焼却する場合は、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン類対策特別措置法及び都道府県市町村条例等に適合する焼却設備を用いて行う。

汚染容器及び包装:

廃棄処理を業者に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び、産業廃棄物管理表(マニフェスト)を交付して適切に処理すること。

焼却する場合は、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン類対策特別措置法及び都道府県市町村条例等に適合する焼却設備を用いて行う

14. 輸送上の注意

陸上輸送:

消防法、労働安全衛生法等に基づき積載・輸送を行う。

海上輸送:

船舶安全法・港則法等に基づき積載・輸送を行う。

航空輸送:

航空法等に基づき積載・輸送を行う。

国連分類・番号:

該当しない。

MARPOL73/78 付属書II及びIRCコードによるばら積み輸送される液体物質

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件:

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

15. 適用法令

消防法:

非危険物。

毒物及び劇物取締法

該当しない

労働安全衛生法

通知対象物質:エチレングリコール、酢酸ビニル

表示対象物質:エチレングリコール

化学物質管理促進法(PRTR)

改正政令(令和5年4月1日施行)に該当しない。

16. その他の情報

引用文献:

JIS Z 7252:2019「GHSに基づく化学品の分類方法」

JIS Z 7253:2019「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」

化学工業日報社「化審法化学物質」

独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質総合検索システム、GHS分類結果

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターGHSモデルSDS情報

記載内容の取り扱い

本安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS中の注意事項は通常の実施を前提としたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して

安全データシート

作成 2010年12月24日

改訂 2023年3月31日

9/9

下さい。また、当社はSDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。